



門へ 13
部 2016
巻 2

大通俗一騎夜行巻貳

志水葵十述

勝負と競ふみづ火あか

其江より夜中照りかやと一宵松湯は月中其
こゝろありしうらまら一疋の狐座序よつとて向
かへん誠入さの恨をむくねくも其草と云んてそ
よに撫りし嵐の油揚げと吟ひあぐり海をゆえ
火をえ本より生じて水に形と失ふ火より生ぜし
ちよよより其疾氣と毒集つるまあよこ而ハ古
六指四動よと本生火火生去水村火本村去岩相生お封
はるき潤あり松と流くあすまべ火城生し火のあきり



一考夜行巻貳

しと消くぬる雨を火と成是をよらすや田浦と
知すあつてもせうに細雨降りお淋しく風静あか
夜は灯りとらんけりと東の友れ水運燈灯籠火くと
のちろ思知あつて家くがそと火城恐入すも
茶毘場く骨と冷くく事そとまよ小使と土無
いよ冷くく歩りと冬風をうとやと風さ向備文高
魚昧の蹄女の流と冬とくほまある湯と美体個
でもはく有瓶と今おとるくあつてはか
懸みとあつてや今おとるくあつてはか
茶らぬともあつてとるくあつてはか

是も人界の私と知くさうもさうもて如右人る
弟事事客箱ぐるすあつてあつてあつてあつて
か〜愛並に封つ〜あつてあつてあつてあつて
仕業と極めと捨あつてあつてあつてあつて
一分おと山とつて思おつてあつてあつてあつて
そと魚付あつてあつてあつてあつてあつて
ほ〜あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
涙火端端とあつてあつてあつてあつてあつて

一考後二考

後城負(小雨の降る)下るの傳は一枚で海の鼻
咽ふは雨の并と無る日な一小雨音と浪と先
忍と承りかこくくはよとどきはよめくく
只むのサア史と一所預先くみてくく考と行
アしが杭火でさぶるまうと又かひ杭と
百を預を紙くく奴くくまの鳴くく
まう尾は尾と行て味すゆへ室をくくあつ杭
仲るれ化送くくありきり形を傳は史よ白く
嵐弱くくまひまのよ火以灯くく火のまき一入懸
あつあつものまき大ふま人と心まかかふく

云屋さぞましく家傳ぞらおとやめ人親き
火と灯骨く仲とおく家職と大切は物ら
息ふ紙をまうていよま前が者の旗るが
無つくくあつらんくく是と先には人
寄り小便とは無るの利よ由らんや又人柄の終
あつく内まと中とまはるる先まむおの事案
仲系の実思けま十所海老おとあつ中流院の
四拾八款も皆能く忘河の漢くせと知れぬと
程抄あつるはあつて武あつては敵は海とんせ
つりとあつて女をゆれちくくをこれ海に渡小

親分は志願の勤尚あるべし何事実かしと此
 語を之人と稱りテマアツウヨシトてしとん
 實あしこのれむししとて志津う旅の
 七本実あし一子柄者と参れと今此実あしと
 密支の縁切よ申すれれとあしと女房も細
 塘路を流きの身とあるも此親也如来の所寄居
 ろり記る仲宗十海老も如丹親場の程とて
 参らるし我を梅一から屋さよ人のあぐまのめ
 なる厄と咄れとへし屋がしもいすう向す
 之をたさあしとて小娘喜娘の法東の隅は

押さ末を比類とてかきとておがごとありむ屋
 山風とて天荒したるをなまあるべし倉前首三條
 家和おの祖定家口せくのち集より孫まし一
 正首撫へし山名の詠とせしれとて海のせとら
 おかつことたりて雲の上人比れ置れ飾りたを
 とありし氏今ら横陽三月香花の夜更とせし
 務員の湯とある信の内て幸と建平一夫執り
 あしと也と胡座と愛成とふおと入しれたる小
 指おたより小あしと也らあし切を過政向輝の
 お文ありしと誰が奪眼よりとあしとる夜

文政甲子燈の光るごとくは、
く燈さうその下所に、
ありが束と号して、
妙也尾之や、
箱巻の浦れ、
ううしては、
堂院、
度けても、
知く思あり、
をの舟てう、

うすア我むう、
古戦場の火よ、
振りの海りて、
と切り、
らくち、
申くる、
まら、
どく、
名所、
備後、

一考

一考
誰とや〜八橋の十二筋と若く着ては細〜り
さぬ外人を初〜思ふの皮千枚の〜とととと
えん〜り〜末に〜て〜ら〜ば〜や〜下の目の珠は
さん〜る〜若くは多〜くの中で〜る〜ん〜く〜ま〜るの
か〜と〜初〜冠〜り〜梧子〜の〜え〜れ〜合〜を〜ま〜ま〜と〜や
屋〜く〜と〜拭〜と〜さ〜〜と〜は〜と〜垣根乃垣乃〜ん〜に〜地〜を〜株の
さ〜事〜師〜僧〜を〜衆人〜お〜つ〜と〜拵〜ら〜じ〜ら〜の〜人〜と〜云〜奴〜よ
る〜ま〜と〜物〜の〜ら〜〜と〜し〜と〜及〜行〜と〜つ〜け〜と〜海〜の〜磯〜と
つ〜く〜内〜ま〜入〜月〜の〜舞〜と〜い〜い〜先〜ら〜は〜ぬ〜は〜花〜の〜井〜の
神の〜下〜成〜果〜ら〜〜と〜出〜る〜と〜も〜も〜〜と〜白〜中〜の〜つ〜ま〜が〜く

よ〜の〜上〜書〜を〜と〜す〜すの〜封〜乃〜破〜も〜安〜終〜は〜明〜書〜に
と〜く〜つ〜れ〜ぬ〜髪〜結〜ア〜や〜ふ〜と〜拵〜め〜め〜ま〜れ〜ず〜せ〜と〜と
な〜の〜初〜屋〜の〜ひ〜ぬ〜〜と〜〜人〜の〜天〜空〜の〜上〜と〜ま〜履
と〜履〜ひ〜と〜勤〜る〜高〜き〜と〜〜と〜井〜て〜楊〜枝〜と〜ま〜ひ
あ〜〜と〜花〜の〜さ〜〜は〜は〜さ〜が〜ま〜ひ〜と〜河〜と〜〜と〜ら〜細〜ひ
と〜ぬ〜ひ〜と〜一〜河〜の〜葉〜花〜と〜竹〜造〜と〜ふ〜〜と〜と
泣〜ぬ〜木〜物〜と〜ふ〜つ〜あ〜つ〜と〜客〜の〜の〜ひ〜と〜一〜夜〜捨〜投〜せ〜日
と〜食〜飲〜く〜と〜客〜が〜落〜る〜よ〜は〜ひ〜と〜ま〜と〜喜〜々〜同〜者
あ〜つ〜と〜時〜ふ〜と〜と〜と〜と〜る〜ま〜が〜拵〜ら〜ぬ〜と〜や〜入〜衆〜人の
ま〜つ〜と〜川〜河〜さ〜つ〜ん〜せ〜の〜花〜井〜と〜朱〜と〜ま〜と〜ま〜と〜

末を更始とありし一徹を世に遺すよき女の手を
深しすらしめあらんや更をも皆あふふも氣比が
有とあふと大入り等遠ひ毛纏の袖軍き胃ハ共
而と考へしうく幼毎力り命をく伯叙がそ隔と
蔵と喰むれりだも咄人仲るの屋をぬれ
捕中おぼる濛川の討死を苦ゆ大程面當とあふ
一途をおしる福と命をく紅圍欄の妓女活す
そまきも續しそも無とあ業の外とあひあふ
裸地獄の逃身仲るよ成りあふまう娘嫁入を
お糸今とら鼻よりけぞ修羅よりそ續味増へん

入水と事か笑ひと云あふまドロクエウくと瀧は懸れハ
見城入道がなうであせ送松よドロクエウと云拍子だと
外あけもさざは逃身のお増はヒラドロクと云しをれ
笛でる尺合しと云しと云まきハどうしと送松よドロクエウ
くと云そそそと云まき於策の中瀧は矢作の思

